

## 硬膜外ブロック説明書

当院では腰部・下肢痛等の治療に「硬膜外ブロック」という方法を取り入れています。治療に際しましては十分な説明の後、自由意志による同意を得たうえで実施します。医師の説明に納得し、診療行為の実施に同意される時のみ同意書に署名下さい。なお、同意を拒否されても、または実施直前までに同意を撤回されても、診療上不利益を受ける事はありません。

**目的：**

硬膜外ブロックとは主に胸部、腰部、下肢等の痛みの緩和を目的で実施されます。この方法では脊髄の外側にある硬膜外腔と言うところに注射をし、局所麻酔液などを注入し、炎症・腫れ・痛み等を改善します。

**治療の実際：**

治療台に横向きに寝て、背中を丸め、ひざを抱え込むような姿勢をとり、出来るだけ背中を突き出すようにしてもらいます。体位が整った時点でまず皮膚の消毒をします。その後、注射する部位に局所麻酔をします。次にブロック専用の針を硬膜外腔まで進めます。このとき痛みはありませんが、背中を押される感じがするかもしれません。針が適切な位置にあるのを確認後、薬液を注入し、針を抜きます。10分ほどですみませんが、ブロック後はベッドで安静にさせていただき、異常がなければ30分～1時間後に帰宅できます。

**効果：**

注入薬の効果により痛み・炎症の軽減、局所への血流増加による症状緩和などがあります。注入液の効果によって一時的に腰の周り、脚などのしびれ、脱力などがあります。ブロックは状態により週に2～3回から1～2週間の間隔で通常何回か繰り返します。

**合併症：**

一般的には安全なブロックで、重度の合併症は非常に稀ですが、以下のような可能性があります。

アレルギー反応

血圧低下

神経損傷

硬膜外の血腫・膿瘍

硬膜穿刺による頭痛、あるいはくも膜下ブロック（脊髄麻酔のような状態）

**代替手段：**

ブロック以外の方法としては 1) 経過観察 2) のみ薬 3) 外用薬 4) 理学療法 5) 手術 またそれ以外の方法も考えられます。